
初戀

実桜生

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

初戀

【Nコード】

N1053D

【作者名】

実桜生

【あらすじ】

告白されて初めて付き合った先輩との懐かしい思い出。

「ずっといいなって、思っていました。付き合ってください！」

同級生の男の子と一緒に、私の帰り道で待ち伏せしていた見知らぬ男の人。

うちの高校の制服だけど、上級生かな？

あんまり突然のことでビックリして、言葉も出ない私に、同級生が言う。

「先輩は、お前のこと、ずっといいなって見てたんやで。知らなかったやろ。」

「うん。」

「まずは友達からでいいんで…。よろしくお願いします。」

「あ、はい。よろしくお願いします。」

男勝りな感じの私に、こんな風に告白してくる人がいるなんて思わなくて。

好きな人がいるわけでもなかったし、付き合ってみてもいいかなって感じだった。

それまで、好きな人がいて告白しても振られてばかりだったし。仲のいい男友達は、友達でしかなかった。

次の日、昨日先輩といた同級生の男の子が聞いてきた。

「OKでいいんだろ？」

「うん。いつから私のこと、いいって思ってたのかわからないけど。」

「1か月前くらいからずっと。」

「そうなの!？」

全然気づかなかった。
部活も別だったし。

それから、私の部活が休みの日に、先輩の部活が終わるのを待って一緒に帰る付き合いが始まった。色んな話をした。他愛もない話。それだけで楽しかった。

先輩の誕生日にはケーキを焼いて渡したり。
私の誕生日には、初めてデートらしいデートをした。
映画を見に行つて、お茶飲んで。
初めて手を繋いだ。
小さなキーホルダーをプレゼントしてくれた。

私は、それで十分幸せだったけど、先輩はそれじゃ駄目だと思ったのかな。

ある日突然、同級生の男の子が、先輩から、と手紙を持ってきた。

黒い封筒。

黒い便せんに書かれた白い文字。

さよならの言葉達。

ままごとみたいな付き合いの終わりを告げていた。

ありがとう、と返事を書いて、それで終わり。
高校で会った時も、普通に笑顔で振舞った。

大好きだったよ、先輩。
いつの間にか私の方が好きになってたんだ。

今も懐かしく思い出す。

綿菓子のような恋の思い出。

キスすらすることもないまま通り過ぎた恋。

今も元気にしていますか？先輩。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1053d/>

初戀

2011年1月29日14時27分発行